

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 15 日作成)

委員会名	基礎構造の限界状態設計法小委員会	主 査 名：小林勝己
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (基礎構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：時松孝次
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2007 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>「基礎構造の限界状態設計法」の確立に必要な、基礎データの収集と分析、設計手法の検討と検証を行う。</p> <p>初年度：設計定数の統計資料、載荷試験利用方法に関する知見を収集、信頼性理論に基づく設計方法の検討、荷重指針の「土圧・水圧」の章を執筆</p> <p>2 年度：収集された知見の分析と方向性の検討、従来設計法とのキャリブレーション、3 年度：シンポジウムの開催、4 年度：問題点の整理とまとめ</p>	
委員構成 (委員名(所属))	安達俊夫(日本大学)、梅野岳(久米設計)、小椋仁志(ジオトップ)、桑原文夫(日本工業大学)、小林勝己(フジタ)、佐原守(大林組)、鈴木誠(清水)、鈴木康嗣(鹿島)、篠崎洋三(大成)、椿原康則(竹中)、永田誠(新日鉄)、本城勇介(岐阜大)、吉田正(東京ソイルリサーチ) 13名	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2003 年度予算	191000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第 1 回 6/4 (11 人)、第 2 回 7/18 (9 人)、第 3 回 9/10 (8 人)、第 4 回 10/28 (9 人)、幹事会 1/12 (2 人)、幹事会 2/17 (3 人)、幹事会 3/18 (3 人)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) ・ 地盤データ - の統計資料に関し、特に同一敷地内で高い密度で調査した事例を収集した。 ・ 杭の鉛直載荷試験の利用方法に関し、国内他学会および海外の動向を把握した。さらに、杭の載荷試験結果を設計に反映する方法について議論を行った。 ・ 信頼性理論を設計に導入する方法、および使用限界状態における杭の耐力係数設定方法に関する最新情報を把握した。 ・ 荷重指針の「9 章土圧・水圧」の章の執筆を終了した。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 本年度は、本小委員会の初年度であり、初年度の活動計画は 80% 程度達成した
その他評価すべき事項	特になし